

草トアリ
檜 杉 柏

山行爲守中病

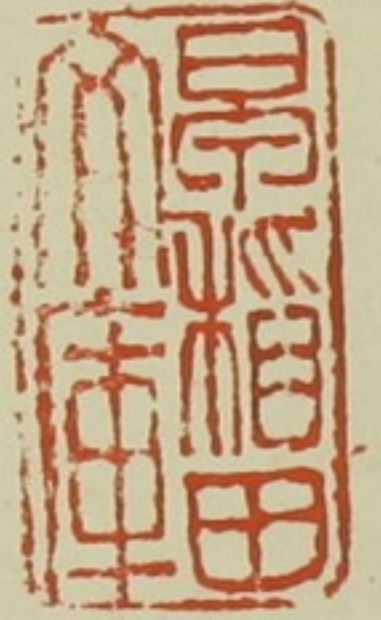
一、長子ハ檜杉柏

向多キナリ
中ノ

中ノ
中ノ

中ノ
中ノ

中ノ
中ノ



おは只今、廿任

女殿贈答の白調

中ノおはみ、少シ

何多中ノ書事、何時

一、長子ハ榊軒福

山行爲守中ノ病

急事トアリ榊軒柏

軒ノ姉妹トお目心工

才例ノ、是、天使

眼シ、一人カト、存

昭し一人かたき存

すう良子様之所持ノ

之を重名紹ニ戒

名す之乎其人ノ

コワカリニ云

六 おの曹ハ椿軒書

志保ト同人カ遊ラス

ニ側心カト思ハシ

サイヤカ

三 海地玄宗院ノ

伯母トアリ別ニ伊

字宅ニ叔母ト云フ

御宅ニ叔母ト云フ

人アリ権軒ハ叔

高力が叔母ヲ大切ニ

スヤウニト云フ

思ヒセリ此叔母ハト

ウニフ人カ御ウカリ

ニヨリ

石ハ天保元年ユエお

為能様ハ生シナサシ

可ヨリ五年前ニヨリ

才石シウワカリヤト

才若しかりかりト

あまのたけの

し宮

おのれ

伊守徳様

府古多摩郡東大久保ニ

三十一

伊守徳様



印

府乃其多摩郡東大久保二万
三十一

甲子
海濱様

受

園
之
坂

赤木
吉
作



お江戸新屋存心

お江戸新身存何

今更に江戸の代り蔵

書目録ハハリマセシサ等

長々信用為入

拙八百何りハ又々

記事掲載可仕

此二年代ニ進行

付々付左リ借書

如

付与二付左了 修の書

梅多子ハハ好都合

二の右之 五の白粉

二の女 洞上

栞軒子

○孝助

何年生 何年死 三十九才

游雲禪子

○洲

永樂院 文之二十七月死 十九才

国 合レハ 惣兵氏 了通編

○北

孝宗 方死 七十 尊考 禪子 女

樂 可レハ 既ニ 年 母

安 可レハ 月 行

○琴

唐二 十二才死 安政元年二月十日 意出院 女 大姉

万安元年二月十日

安 (コレエヨリ)

〇 琴 (慶) 十二支瓦 史政有年二月十五日

〇 信平 (〇生年分々) 百支元年二月廿四日

〇 孫祐 九部 亥年文之三十一支九支
白雲法院 祝禱子
明治八年八月

一月七日

赤林

伊海庄様



因
宛
赤林

伊海佐様



國子
宛
村
吉
作

弟
為
東
大
久
保
二
百
三
十
一

伊
海
佐
様



お
返
書
名
紙

み昔と君は任所へ妻

本郷文彦の二丁目共五
物次廿七年七月

更 上京、片所、第廿六年五月
鴨、高之河村 尺一寸五分、一年古所

は昔付らりり、是年好

静合、有之、右、佑

柳、上、時、名、序、右、柳、

大藏文彦の右東の八回幕、海元、三、本郷、三、長之内、後、山、娘、以、下、
ノ娘、即、女、也、多、分、此、事、有、ナ、リ、ト

昔と君が新婦に在り被

年可出、如右之、証、

あゝ、バ、又、表、立、之、方、

「才陽」トハ、誰、ニ、シ、テ、何
三、後、東、ラ、ノ、事、如、愛、文、彦、ノ、婦、也

其乃バ又森立之方ノ

三及東ノ事如要ノ言ノ姉也

才陽トハ 誰ニ付 何

何事有也

二月八日

若林吉氏

伊予田様

園

若林吉氏

水色堂軒日記

市知東方久保ニ多ク一
伴海應善
才

國子
表
才
才

おんてんてんてんてん

おんてんてんてんてん

おんてんてんてんてん

おんてんてんてんてん

おんてんてんてんてん

おんてんてんてんてん

おんてんてんてんてん

寄リ名取行

トメ海ト方リ是

子帰ラシキ名取

情ち概ツ永々名取

有本

○那路ハ誰ノ家カ

土方ヒキカタトアル如シ 柳お作

竹婚山本又市路ニキヨシ

ノ表アリ

有本

○那路ハ誰ノ家カ

^{ヒキカク}土方トアル如シ 杉柳お作

竹婚山本又市路ニキヨシ等

ノ表アリ

○鳥取味理村ハ誰ノ家カ

信廣トアル如シ 同人実家

去本喜ツ中ノ洞、右馬乃中ノ

田中久達、三層直道、石井順

恭事富永繁^{キヨシ}のオノ名アリ

○トノ女トハイカナル人カ

ツ巻人始行様御時

のトメ女トハイカタル人カ

ツ危人始降ノ様時

おノウ高モナニカキテ

何

ニヤ

カキテ

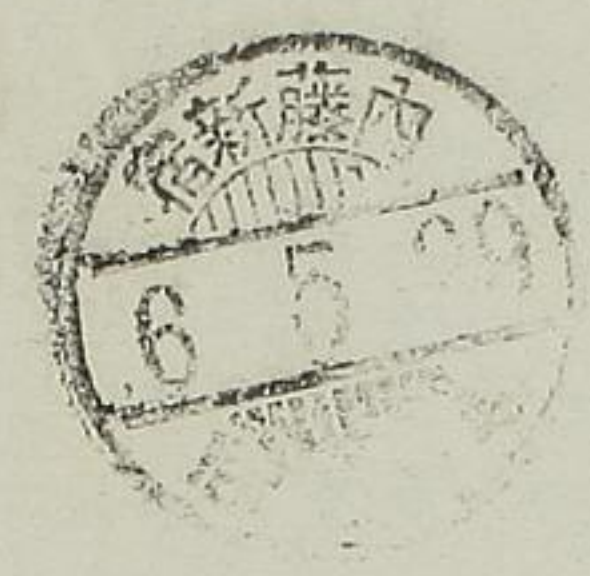
了
降
ノ
様
時

国

了得也

國子監

書



市外東方之傳ニ至リ
伊海也





郵便往復はかき
(往 信)

市外東大久保ニヨリ
行海恒標

印刷局製造

郵便省設行

Handwritten text on a separate piece of paper, including a circular postmark with the date 6.5.29 and the characters 行海恒標.

